

## 函館市観光基本計画（案）に関する経済建設常任委員会での意見等について

委員.	意見等	対応
工藤	<p>パブリックコメントでは、市民の方からの意見なので、いろいろな意見がでており、参考にするということだが、基本的な構想に修正がないというのはどのような理由か。</p> <p>それでは、あくまでもパブリックコメントで皆さんからいただいた意見は個別のものであって、大きな構想には関係ない。例えば交通機関の見直しについての意見があるが、これらについては観光部では案は持っていないということで考えてよろしいか。</p> <p>交通機関は日本中全国、観光地以外でも大変課題になっているわけだから、函館市としてはどういう観光にしていきたいのか。</p> <p>長崎は「さるく博」といって、歩かせる観光をずいぶんマップに収めている。いろんなところからの交通手段、または歩いてもらう観光というのが目玉になっているが、そういったことは、考えていないということが分かったので、まず市民の意見のことに關しては終わりにする。</p>	<p>観光基本計画の素案は、基本的には5年後の函館観光のあるべき姿ということで、基本理念、基本方針を記載している。</p> <p>意見の多くは個別事業の提言と受け止めており、今後の新年度以降の事業なり、関係する各部局への参考にさせていただくということであり、計画そのものの表現についてはこちらの方で網羅できているという判断のもとこういった対応をさせていただきたいと考えている。</p> <p>交通機関、二次交通含め、課題なり検討事項というのは観光部の方も認識している。ただ、こういったことについては、各事業者や庁内関係部局との協議も必要になってくる。当然、目的達成のためにいろいろ協議することはあるが、今回の素案の中については二次交通なり、交通の件を大きく網羅してその中で今後検討していくということである。</p>

<p>斉藤</p>	<p>観光基本計画は5年ごとに変わったのは、今の情勢であれば当然10年から5年に変わるの私もそれでふさわしいと思う。とても読みやすく、言葉使いもとても受け入れやすい、良い計画。</p> <p>基本方針3と4が新しく加わったという説明だった。やはり観光関連業者の方、それから一般市民の方に少しでもこれからの函館の観光はこういうふうにやっていくという周知、意識の醸成をしていかなければと思う、どう考えているか。</p> <p>だが、関連業者の方々は今までもずっと観光に携わってきている方々なので、市民理解を進めていくため、市として、どういうことを一緒にやっていきたいかというところを、しっかりとアピールし、醸成を図っていただきたい。</p>	<p>環境の変化が激しい中、10年間だと見通しが厳しく、5年間に短縮した中で計画を策定。また、事業者、市民にわかりやすい表現というのが、策定検討委員会で、第一に出てきて、これまでのような行政だけではないということを強調しようということだったのでこういった形になった。</p> <p>盛り上げる人を増やすというのは、観光産業の担い手を確保するという意味も将来的にはあるが、今後具体的には市民講座や出前講座、大学生の研究対応も多い。中長期的に函館の観光業に携わっていただきたいという視点で対応している。</p> <p>また、経済、観光を通じて、函館が潤う地域作りを進めると市民に理解してもらうということが今回の肝となる。観光の経済波及効果は、実感してもらうということが難しいという、計画策定検討委員会の認識もある。</p> <p>観光業が潤い雇用環境の増加にもつながる、企業の業績が良いと市税の税収がアップし、ひいては市民サービスの充実に繋がるといった好循環を、わかりやすく周知を図っていきたい。</p>
	<p>地産地消の推進について、観光客向けの飲食店でも、地産地消いろいろやるところなどある。素晴らしい情報発信をしている集客している飲食店もあるが、市として地産地消の推進と挙げている以上、それぞれのお店に自分たちで情報発信頑張ってくださいとおまかせするのか。情報発信の仕方として何か考えてることがあるか。</p>	<p>地産地消の情報発信の仕方について、非常に素晴らしい取組をされている飲食店も多数ある。市長の政策にもあるが、食の魅力発信は一つ大きく掲げており、観光と結びつく課題と認識している。経済部の飲食店振興、農林水産部の農林水産業振興と連携し、どのような形で発信すれば観光客に届くのかを検討していく。</p>

<p>池亀</p>	<p>観光を一緒に盛り上げていこうという人材を増やしていく。遺愛高校の生徒の皆さんの活動なども、市民の真心のこもった活動が、そういう人材を増やすことになり、おもてなしの心に繋がっていく。ここは非常に評価できると思うので、しっかりと推進をしていただきたい。</p> <p>今回の石川県能登半島地震に関わり、地震発生時は観光客の対応が大変である。</p> <p>観光地は多くの観光客の方がいらっしゃる。函館の各宿泊施設においては、何か起きたときにお客様を誘導できるよう訓練はしっかりやってると思う。</p> <p>市として、観光客に対する防災対策をどうするのか。こういう時代なので、基本計画にぎっくりでもいいからやはり組み込んでいくことが市として大事ではないか。</p> <p>気候変動の激しい時代である。例えば、どことどう連携をとっていくのかなど、石川県能登半島地震を通して、改めて陸海空のアプローチ、万全にしておくことが大事。</p> <p>避難所と言っても、ホテルの方が誘導するかもしれないが、観光客の皆さんは土地勘がない、肩身が狭いというのを前提に、きっちり考えておく必要がある。</p> <p>何か機会がないと、なかなか真剣に考えられない、しっかり検討する必要がある。観光部として、観光客の皆さんをどうしていくのか。そういうことをしっかり研究し、市として、どういうことするのが大事なのか考えていく必要がある。これは強く要望しておく。</p> <p>観光の街函館として、市民がどう恩恵を受けているのかというところは、年に1回でも2年に1回でもいい、こういう基本計画を作ったときでもいいので、時には市長から語る機会があっても良いと思う。ぜひ今後検討していただきたい。</p>	<p>観光客は市民と違い、土地勘のない方を誘導するのはまた違った問題が多くある。特に、日本人はともかく、外国人の方というのは我々も普段から難しい問題だと考えている。メインは宿泊施設になると思うが、まず身を守ってもらおうという、災害時の対応はとっていただくにしても、その後の情報収集や周知、交通機関などについて、市内の防災体制の情報を逐次把握し、情報提供できるように、関係事業者さんと、今後検討をしていきたい。</p> <p>観光基本計画に書くかどうかについては、今日のご意見も踏まえ、また来月以降、策定検討委員会や市内協議で修正の機会もあり、そういった中で意見が出れば、検討したい。</p> <p>万が一のときも含めて、安心して安全に観光いただけることが大切だと思っている。ただ、市内にいる方は、観光客であろうと市民であろうと、やはり罹災した場合には避難所にご案内するところであるが、考えていきたい。</p>
-----------	--	--

<p>荒木</p>	<p>観光業の活性化により他の関連事業も効果があって、また、函館市内全域に経済波及効果が出るということが大きなポイントかなと感じた。その入り口は何かと考えると、観光客がいかに函館でお金を落としていくか。これを上げていく計画なんだと。</p> <p>具体的には大きく2つ。</p> <p>観光客が今もう割とマックスまで来ている春夏の繁忙期は付加価値を上げ、1人当たりの消費額を増やす。2つ目は、秋冬はとにかく人を増やすということ。</p> <p>全体を通して今回の観光基本計画のポイントはそこにあると読んだ。</p> <p>感想としては、本当に5年でこれができるのかというぐらいメニューがいっぱいあるなと思ったので、総合的にやっていくというよりも、どこに力を入れていくのかということ、今後明確にした方が良い。</p> <p>特に富裕層向けの商品作りという言葉があったが、今函館が考えている富裕層というのは、どのあたりの富裕層のことをターゲットとして見ているのか。</p> <p>中国のアップーミドル、年収2,000万円ぐらいの層が、函館に来て、例えば何をしたいか、どんなことにお金を使いたいのかということ、それを把握するための手段として、どういうことを考えているか。</p> <p>観光基本計画の中にアドベンチャートラベルを求める富裕層も喜ぶプログラムについての記載があったが、富裕層相手だと本当に顧客満足の求めるレベルも高く、対人スキルも求められると思う。おもてなしや対応してくれたサービス、その人のスキルというのも大事だと思うが、そういった富裕層が喜ぶアドベンチャートラベルのプログラムを函館で提供できるのか。具体的にどんなことを考えているのか。</p>	<p>富裕層のイメージは様々だと思う。アラブの大富豪、石油王だとか、アメリカの不動産王などいろいろであり、富裕層にもスーパーリッチからミドル、アップーミドルというような方々まで様々だと思う。</p> <p>スーパーリッチの人たちに、我々がアプローチするという事は、実際はほぼないと考えており、現実的なところでは、例えば中国のアップーミドル層で年収2,000万円といった階層をターゲットとして、実際に今年も事業にも取り組んでいる。</p> <p>また、一般的に欧米の方々は消費額が高いということも言われており、欧米へのプロモーション強化ということも、一つ課題なので、その中に富裕層も含まれてくると考えている。</p> <p>今年度も、既に中国系旅行会社と連携しており、そういった方々のモニターツアーや、それを商品造成に繋げていくといった取組を進めているところである。</p> <p>アドベンチャートラベルは3つの要素が必要だが、北海道が優位であるアドベンチャー部分というのが自然環境。函館は、そこはアドバンテージとしては少し劣る。そういう意味で、富裕層の嗜好にフィットしたコンテンツを提供できる事業者が、現在営業してるかということ理想的な環境ではないと思う。</p> <p>カヌーやトレッキングといった一般的なアドベンチャートラベルの事業者はいるが、富裕層にフィットしているかということそうではなく、大きな課題であると考えて</p>
-----------	--	---

私もそこは課題だと思ってる。例えば中国のお金持ちが来たときに、本当に他にはないもので、函館でお金を落としてくれるものが、アドベンチャーリズムなのか、他のリズムなのか、どこで稼げるのかということは考えていただきたい。

先ほどアッパーミドルとかスーパーリッチという話があったが、私は今回クルーズ船が来たときに同じことを感じた。カジュアルクルーズで来る方もいるし、高級なクルーズ船でいらっしゃる方もいる。高級なクルーズ船で来た富裕層の方は、良いトライアルになると思うので、港湾空港部と連携し、その富裕層のニーズを把握するとか、トライアルをするとかっていうことが必要ではないか。

宿泊日数の増加について、「広域連携により宿泊日数の増加を図ることによる観光消費額の拡大」とあるが、旅行日程というのは、ツアーであれば先に決まっているし、お休みの日数も決まっている。その中で、宿泊日数を増やす、すごくハードルが高いと感じた。

それよりも、函館に滞在している間に、いかにお金を落としてもらえるか。そちらに特化した方が、効率がいいのではないかと感じたが、そのようなデータとか、何かエビデンスがあったらお聞きしたい。

宿泊日数を増加してもらえるようなキーとなるようなことは何なのか。

いる。

富裕層向けの宿泊、それから交通、ガイドのスキル。そういったことも含め、富裕層を受け入れていくということに関しての課題だと受け止めている。

おっしゃるとおりだと思う。そういった機会はめったにないが、たまたま新しい船の初回寄港の時におじゃまさせていただく機会があったが、小型の船で室数も少なく、乗客も多くはなかったが、ヨーロッパのかなりリッチな方が乗船されているということだった。

一方で、非常に大きな船で、比較的料金の安いクルーズ船もある。そういったことで比較がうまくできるのではないかなと思った。

その時はそういった市場調査は実際に着手できなかったが、そういったことが何かできないか、港湾空港部とも連携して考えていきたいと思う。

宿泊日数を増やすか、短期間でも、滞在中の消費額を増やすのがいいのかという議論はある。広域連携をする意味は宿泊日数を増やすということ。すなわち滞在期間が延びると自ずと函館に落ちるお金が増える。その時にキーとなるのが広域連携。

この計画の中で考えているのは、札幌まで、また、その近郊までである。

函館から日帰りで行って帰って来れるところの連携も大事だと思っており、特に七飯町、北斗市、鹿部町などでアクティビティーや観光スポットを楽しんでいただける方が増えれば、宿泊施設が集積している函館への宿泊も増えると考えており、そのような情報発信や、魅力の掘り起こし、近隣市町との連携というのがキーになってくるといふふうに考えている。

京都などでも、オーバーツーリズムの被害、色々な課題が出ている。函館で懸念されているオーバーツーリズムとして、具体的にどのようなことが想定されるか。

オーバーツーリズムはおそらくもうアッパーにきているので、数を制限すべきなのか、もしくは何らかの対策を施すことによって解消できるのかという、どちらかだと思うが、函館山に関しては、まだまだ後者の方で対策できることがあると思う。

パブリックコメントの方で1点だけお伺いするが、7ページ目の24番のパブリックコメントがあるが、1つの例になるのだが、市の考え方とところで、貴重なご意見として事業検討の参考とさせていただきますという回答がものすごく多かった。もちろん

京都や鎌倉のように、市民生活に直接脅威が及んでいるケースは我々としてはまだ把握していない。

ピンポイントでいうと、皆さんご存じのとおり函館山へのアプローチ、夏場の夜景のある時間帯はやはり集中している。

来ていただくため、誘致はするが、これ以上、この現状で誘致していく、来ていただきたいというのは、なかなか言えないような。日没前後のピークが本当にひどく、交通渋滞もしくは上の展望台の危険な状態というのも聞いている。

そういったことについて、一般車両の通行規制や、ロープウェイさんの協力も得ながら安全な誘導など、手を尽くしている。ただ、それだけでは不十分だということで、若干予算なり関係機関との協議が必要になるが、何とか山頂の展望スペースの誘導、分散誘導や安全確保という部分、マナーの啓発など。場所の占領という声も若干聞いている。そういった意味では、函館山に対するこれまでの展望環境の改善は、今後も我々の大きな課題だと考えている。

パブリックコメントはあくまでも観光基本計画の表現とか、記載についての意見を求めてきている部分もある。

市民からの要望で、例えば、達成度の報告とか、観光アドバイザー会議において外部の委員さんたちが事業の検証など、毎年

<p>数が多いからというの分かるが、内閣府が出しているパブリックコメントの概要を見ると、やはり提出された意見がどう考慮されて、反映されたか、もしくは反映されなかったかということを中心に市民に返す必要があるんじゃないかを感じる。</p> <p>例えば、この24番の「ボランティアガイドなど、市民との連携とその成果が思ったほど見えてこないの、そのあたりをどうしてきたかの達成度や経緯を報告して欲しい。」っていうものに対しては、ちょっとこの回答はそぐわないんじゃないかと個人的に感じた。このあたり今後、参考にした結果というのは、市民に対して何らかの公表はするのか。</p> <p>折角、今回こんな素敵な基本計画になって、市民と一緒にやっというマインドになっているので、これを逆手にとって市民からのパブリックコメントでこういうのが出たというのをPRできるいい場だと思う。そういう使い方も検討いただきたい。</p>	<p>検討していく中で、公表をすべきだという意見があった場合や、効果があった部分については積極的に公表するといった手法も今後検討していきたいと考えている。</p>
<p>野沢 いただいたパブリックコメントについて、意見提出者のところが個人6名の方から44件とある。内訳はどうか。</p> <p>明確な回答じゃなくても、質問に少し寄り添ったというか、この質問に対しての回答だっていうのが分かるような。自分が質問した立場であればどう思うか。</p> <p>基本方針の3番目に盛り上げる方ということも掲げているので、貴重な御意見を寄せてくださっている方に対する誠意といったものは持つべきではないか思い、意見とする。</p>	<p>1人1件、2件の方もいた。多い方が31件。あとは残りの方々が数件で、計44件となっている。</p>

<p>工藤</p>	<p>時代が変わり、観光基本計画の中でいろいろな対策が講じられた計画だと思っているが、8ページの経済における観光の役割、ここもとても重要なことだと思う。</p> <p>観光産業の活性化、他産業への経済効果の波及、豊かな市民生活。これはちょっと今までにない計画、項目ではないかなと思っている。観光部の予算が1億円あるわけだが、函館市民の税金で、観光客のために使われているのではないかという不安と疑問があるようにも感じている。その中で、そうではないよと、経済効果が必ずあるんだということが示され、市民を巻き込んでの観光を考えるべきだ。</p> <p>3つ目の③に函館を誇りに思う。観光地としての函館を誇りに思う。函館愛の醸成というのがあるが、これは本当に大切なことだと思う。函館の観光で他都市と違うところは函館の歴史性と歴史に伴う建物、街並みだと思う。</p> <p>ミシュランガイドにも載せられた函館山からの景観もそうだが、朝市だとか金森倉庫群。これはなぜこうのようできたのかという歴史。歴史をもっと函館の人と共に、作り上げていく観光資源というのも必要ではないかなと思う。</p> <p>昔、函館山の要塞を観光資源にしようという取組も行われたと記憶にあるが、いつのまにかそれもなくなってしまったかと思っていたが、それも含めて、函館がなぜでき上がったか。函館の経済はこのようにして生まれたとか、北前船の歴史だとか、歴史と町並みと景観と食は1つにまとまるテーマとしてあると思う。それを他都市と違う観光資源として、もっと函館をPRするようなことを考えていただきたい。</p> <p>函館出身のいろんな芸術家がいると思う。現在活躍している漫画家さんも、アーティストもいるし、歴史上の方々もいる。このの方々をもっとクローズアップして、函館の歴史と共に語っていけるような、そん</p>	<p>策定検討委員会は学識経験者の方々、業界関係の方々、それから一般公募の方で学生さんや個人でガイドされている方で構成された委員会であり、その中でこの素案の骨子が作られてきた。</p> <p>事業者と市民の関わり、観光産業と市民の関わりにスポットを当てようということで、議論が進んできて、歴史教育や、歴史の重要性っていうところの個別の施策になると思うが、そこの議論はなかったというのが実際ところである。</p> <p>おっしゃっていただいているような、その歴史があって函館の今の観光が成り立っているということは非常に重要なことだと認識はしている。</p>
-----------	---	---

	<p>な観光資源を作っていただきたいと思うが、この計画をつくるにあたり、そういう函館の歴史的なことについて意見は出されたのか。</p> <p>また別な場面もあると思うので、いろんなところで質問や、提案、提言させていただきたいと思うが、最近話題になっているアニメの名探偵コナンで函館が舞台になる。また、大泉洋さんが吹き替えに入る。そのほかにも、いろいろな漫画、本の方でも函館が舞台になっているものが多く出されているので、それは本当に嬉しいことだし、今、日本中の観光のツアーを見ると、その街の歴史を探るとか世界遺産ツアーとかがあるようにも感じているので、函館の歴史、何かその辺もちょっと考えて、これからも提言させていただきたいと思う。</p>	
板倉	<p>2次交通の話が出ていたが、アドバイザー会議や計画策定検討委員会でも、この2次交通の議論は意見が出されていたと、議事録を見ても分かるが、観光に来た皆さんの交通需要と、一般市民の皆さんの交通需要にはやはり隔たりというか、乖離があると思う。市民の方が通常どこかお出かけになるのに使う交通手段、それと観光客の皆さんがここに行きたいという目的で使う交通手段。そういうのは、やはり違うと思うので、観光に特化したと言うつもりはないが、そのところは観光客の皆さんに利用しやすいような交通機関あるいは交通手段、交通路線。こういったものを観光基本計画として考えていく必要があるのではないかと思うが、いかがか。</p> <p>事業者だけに任せても、採算主義に行くとなかなか難しいと思う。</p> <p>東部4支所の話も出たが、世界遺産や国宝、そのようなものがある場所に行こうとすると、なかなか直接行けない。今年の</p>	<p>生活路線あつての観光もあるかと思う。あと、事業者さんの人材不足や取り巻く環境というのはなかなか厳しいというのは、我々も認識している。</p> <p>観光ルートというのは、やはりほぼ決まってる部分もあるかと思う。東部4支所管内だとか、遠い部分もあるが、人手不足の解消はもちろん、事業者さんで対応していただく部分もあるし、我々とすればいわゆるDX化、デマンド交通とか、そういった観光客に特化した対応策としてどういったものがとれるのか、アドバイザー会議や直接事業者さんと、今後どういったことができるのか、関係部局もあるので、そういったところとも今後協議していきたいと考えている。</p>

夏はグリーンスローモビリティをやったから、そういう交通手段が新たに出来るのであればいいのだが、やはり少し観光客の皆さんにも調査とかアンケートを行って、どういうものが必要か、どういうことが欲しいのかは市としても十分把握して、事業に生かしていくことが必要だと思うので、ぜひお願いしたいと思う。

前に長野県の茅野市に行った。あそこにも国宝になっているのがある。そこに行きたかったが、そこに行くバスは1日数本しかない。午後になるともう行けない、行ったら帰って来れない。このような状態である。やっぱり観光の魅力という意味では、少しマイナスというかリスクになってしまいうから、十分検討いただきたいと思う。

齊藤委員から、基本計画の市民に関わる部分を市民に周知すべきだというお話があった。私も大変重要なことだと思う。市民だけでなく、それぞれ事業者なんかもそうだが、今回の基本計画は市民の皆さんにいろいろとご協力いただく、あるいはその意識を持っていただくと書かれているわけだから、それは十分やっていくべきだと思うが、具体的にどうしていくか、今考えはあるか。

言いつ放しや見せっ放しで、市民の意識が高まるかと言ったら、それはなかなか難しいというのは皆さんも承知だと思う。

どういう対象で、どういう人たちがいつ集まれるかというのはあるが、やはり実際に函館市の観光をこうしたいんだ、だから、例えばこういう市民にはこういう面でもお願いをしたいし、みんな一緒にやりましょうという認識にならないと。ここでいう、質の高い観光というものにはならないと

先程少しお話ししたが、市民、学生さんへの出前講座や市民講座とか、なかなかテーマもあいまいな部分もあるので、そういったとっかかりやすいテーマにするというのも1つの手だし、紙面の活用もある。一番見てもらえそうなのが、例えば市政はこだてや、ホームページのはこぶら、もしくは市のホームページで、例えばだが、紙面が許すようであれば観光について連載企画を考えるとか。フォーラムとか説明会っていうのは予算もかかるし、限られた方への招待になってしまうが、少なくとも今まで以上に、観光基本計画が市民の皆さんに身近なものだということを、今後いろんな検討をしていきたいと考えている。

<p>思う。課長が言われたことだけでは、なかなか難しいと思うから、十分その辺のところを徹底していただきたい。</p>	
<p>観光基本計画は今回で5回目の計画になる。今までは10年間だったが、初めて計画期間を5年間にした。アドバイザー会議や計画策定検討委員会の議事録を見たが、この計画期間の議論っていうのはあまりなかった気がする。</p> <p>こういう時代なので、長い計画期間で目標をずっと先に置くというのはどうかと思うが、5年間にした意味はどういうことか。</p> <p>10年計画と5年計画のどちらがいいかという議論をするつもりはないが、どちらにも利点と欠点があると思う。10年計画だと、一定のスパンの中で何をしていくかということが計画して持てる。社会の情勢は変わるので、途中で見直しなどが必要になってくるということももちろんある。</p> <p>5年間だと、この短い期間の中で何をやるのか、実現できるかどうかと、そういうようなことも考えながらやっていかなければならないなと思う。</p>	<p>本計画はこれまで4回策定し、それぞれ10年間という期間を設定してきた。</p> <p>議論の中で10年が長いとか、5年にすべきだという大きな流れというのはなかったが、国、道、他都市の最近の計画期間の設定という部分も当然踏まえた上で案を作った。コロナはちょっと極端かもしれないが、そういった国際情勢、社会環境、経済状況、情報化の進展、10年間といってもなかなか先が見えない部分もある。流行の変化も早いということで計画期間を5年間にしようということだ。</p> <p>10年間だと策定委員会の皆さんも目標だとかが見えづらいということで、比較的先が見えやすい5年間についての具体的な方向性を示そうという議論、前提があり、5年間ということで作らせていただいた。</p>
<p>8ページに、あるべき姿と計画の基本理念ということがあり、その中の右側に「市民生活にも生まれる良い影響」と書いているところがある。</p> <p>「観光産業からの経済波及効果の結果として、歩きやすい歩道などの都市機能整備や観光産業への就職機会の提供など、市民</p>	<p>この中の歩きやすい歩道は、観光客向けに整備した歩きやすいという意味ではなく、一般的な市道に付随する歩道整備という意味で書いたものであり、市民生活、税収が上がれば市民生活に還元されますということの1例のつもりであったが、確かに観光客向けの整備と勘違いされる書き方で</p>

<p>生活にも良い影響を数多く生み出しています。」と書かれてるいが、観光客のために歩きやすい歩道を作っているわけではないはずで、市民のために歩きやすい歩道やユニバーサルデザインだとかインクルーシブのまちづくりとか、その結果として観光客の皆さんにも、歩きやすい歩道なり、そういうものが整備をされていくと考えるが、その辺のところはいかがか。</p>	<p>もあったと思う。</p>
<p>6 ページに函館市の観光資源というところがある。バラエティ豊かな新しい観光資源という中に、「観光・MICE 施設では、キラリス函館・HAKOVIVA (ハコビバ)・函館アリーナが誕生」というようなことが書かれているが、確かに施設はできたが、その施設ができただけで、それが本当に生かされた資源なのかということになるとちょっと疑念がある。</p>	<p>ここには新幹線開業以降に誕生した新しい施設の一例ということでの表現であり、観光資源として本当にこれが利活用されて、観光振興に貢献しているのかといったところまでの検証を行ったものではない。</p>
<p>9 ページに「函館観光のあるべき姿」と記載がある。あるべき姿という表現は今までの計画にはなかった表現だと思う。あるべき姿というのはこうでなければならないとか、こうあるべきだという意味合いの言葉だと思うが、その下には「5年後の函館観光が目指すあるべき姿」とあり、日本語として適切なのかと思う。ここで言ってるのは5年後の函館の観光はこうなっていないといけないということでもいいか。</p> <p>あるべき姿というのはこうでなければならないという言葉なので、目指すとはまたちょっと違う形だと思う。その辺のところは表現の仕方を十分考えながら作っていくことが必要だと思う。</p>	<p>確かに日本語の部分で指摘を受けると、そうかもしれないなとは思う。これはあくまでも5年後の函館の観光の理想像を表したものである。</p>
<p>コロナを経験して、観光や旅行に対する意識というのは少し変わったと思う。確かに今観光客の皆さんが戻ってきたが、観光の仕方はやはり国民あるいは海外の皆さん</p>	<p>個人の旅行が増える、車移動が増えるなど混み具合を避ける傾向は今後おそらくスタンダードになっていくと思われる。我々も何が今後のスタンダードになるかについて</p>

<p>の意識も変わってるのではないかと思っている。その辺のところはどう位置付けられているか。</p> <p>しっかり検討していただきたいし、他の観光地もいろいろと施策を行っていると思うので、その辺のところは十分調査をお願いしたい。</p>	<p>て、一概に答えは持ち合わせていないが、当然、人の動き、海外の好みの部分も変わってきていると認識している。それを踏まえた生活様式の対応、旅行形態の対応については、今後、ターゲットごとになると思うが、細かいフォローができればと考えており、把握に努めてまいりたい。</p>
<p>先ほど市民の皆さんに対する周知についてお話をいただいた。観光基本計画策定検討委員会には経済界、観光コンベンション協会、湯の川それから函館のそれぞれの旅館協同組合の皆さんが代表として入っているが、実際に事業者がどのような形で、参加しながら観光を盛り上げていく、または新しい観光を作っていく。そのための重要なキーパーソンになっていくわけだから、観光事業者や旅行事業者とかの声をどういうふうに把握して計画に生かしているのか。</p> <p>私は、観光部の皆さんにもっと外に出ていただき、直接、事業者の皆さんや利用者の皆さんの意見を聞く機会を作っていくべきだと思う。</p> <p>事業主の皆さんだって、色々と意見をお持ちで、それを組合の代表の方が全てお話しできるということでもない。中には貴重な意見もあれば、市にとってあまり聞きたくないような話もあるかもしれない。やはりもう少し直接お話をする機会を作っていくべきだと思うので、ぜひ参考にしていただきたい。</p>	<p>策定検討委員会の委員の皆様が各関係団体を代表されているということで、当然その立場で、発言、検討いただいているというのが大前提である。そのほかに、公に意見交換の場を函館市の観光部と各団体と組合と役員が勢ぞろいして持つという機会を作ったわけではないが、日常的に役員の方々と意見交換もすれば、雑談の時もあるが、情報交換もしている。</p> <p>今後の函館観光の進むべき道、将来像というようなことも経営者の皆様と、日々意見交換をしている中で、そういったものが反映できたものになったと認識している。</p>

基本理念だが、「観光の価値を高め、函館を照らす ～もう 1 回、もう一泊、もう○○～」と、その○○の部分については観光事業者初め、市内の事業者、市民の皆さんにも自分のこととして考えて欲しいということだ。基本理念も、観光基本計画も、単に函館市の行政の計画というよりも、市民だけでなく、観光に来る方々やその観光を手がける事業者の方々にどれだけインパクトを与えられるか、あるいは行ってみようと思ってもらえるか、その辺のコンセプトというかフレーズ、そういうものでなければならないと思うが、そう考えたときにこの基本理念のフレーズというのがどうなのかと思うが、市としてはどう考えているか。

策定検討委員会で議論されて、結果としてこういうフレーズになっているということなので、それに異議を唱えるつもりもないが、この観光基本計画がどういう位置づけなのかということに対しては、今の次長のお答えとは少し違って、市民なり地域なりということだけではなく、やはり函館の観光はこうなんだということ、外に向かってもお知らせをしていく、そういう計画であるべきだと思うので、その点は少し考え方が異なるのかもしれない。

最後に 1 つだけ、この観光基本計画は方向性や考え方を示したものだという受け止めである。一般的にこういう基本計画を作ったとき、具体的に何をやっていくのかというのを実施計画や行動計画などで具体的に目標を定めて、いつまでにこういうことをやっていくとか、そういうものを市も作ってきたと思うが、その辺はどう考えているか。

5 年間のスパンの中で、例えば平均宿泊数を 1.48 泊にするための具体的な施策は何かがあるか、また平準化指数も 0.58 を 0.63 にするために具体的に何をするのかとか、あるいは今回出ている基本方針の中でいろんなことを施策としてやるというふうになる

あくまでも策定検討委員会の中で作られた、各委員のアイデアがこのフレーズに集約されているが、全国の観光客に向かって発信するためではなく、あくまでも地元の事業者さんが 5 年後、こういった函館を目指すのか、それを表そうということで作られたものと認識しているので、これは策定検討委員会の皆様、地元事業者がこの思いを伝えたいということが表現されたものと認識している。

今後 5 年間のあるべき姿を示すものとして、基本方針、理念を提案させていただいている。

それについては個別の政策、具体的な事業が当然必要になってくる。その都度優先度に応じて予算の範囲内で観光部を筆頭に関係部局も予算要求することになったりする。それ以外にも、民間事業者の事業についてもできることできないこともあるかと思うが、我々としては 5 年間で平均宿泊数を伸ばすには、我々にできることはこういったことだということ、常時協議しながら、対象事業をピックアップしていき情報共有していきたいと考えおり、また、アドバイザー会議でも議論していただいて効果

が、これは具体的にいつまでにどうするのかということなどは、ある程度、実施計画のようなものを作って目標とすることが必要でないか。

予算のことを言い始めるとできないものはできないんだなになってしまうので、そこはあまり考えず、何ができるかではなく、できるためにどうすべきかというふうを考えてやっていただきたい。

検証等が続けていきたいと考えている。